



243号 発行所/ 下関市長府外浦町1番1号 国立病院機構 関門医療センター 発行責任者/ 病院長 林 弘人 印刷/(株)アートネクスト

関門医療センターは君たちのことを忘れません

研修医の内海での航海練習に... 医師の一生を航海に例えれば、大学時代はプールでのオールの使い方の練習、初期研修は内海での航海練習に... 仲間であることを忘れないでください。

最後に研修医の成長を見守っていただいた病院スタッフの皆様、また患者さんにあらためてお礼を申し上げます。 bon、voyage!



研修医諸君、研修修了おめでとう。実は君たちには特別な思いがあります。私は3年前の当センターへの赴任と同時に研修部長に就任し、君たちが学生の時から面談や病院見学などに携わってききました。

採用した研修医も多くいましたね。全く見学もせず、当センターでの研修を決心してくれたことに感謝します。研修は満足のいくものだったと確信しています。素晴らしい指導医に囲まれて、また2年目には外病院での充実した研修もでき、思い描いた研修ができたのではないのでしょうか。時間外手当も明確化し、働いた分はしっかりと収入があったと思います。新型コロナウイルス対応では、ワクチン接種から検査、病棟診療まで携わってくれて本当に感謝しています。まさに君たちのおかげで新型コロナウイルス禍を切り抜ける事が出来ました。今から立ち向かう困難にも、関門で最初に出会った同期や先輩達が見守ってくれています。ここで培ったファーストタッチでの自信もきつと手を貸してくれることでしょう。私たちはいつまでも君たちのことは忘れず、成長を見守っていきます。

研修医修了式 臨床研修を終えて



研修部長 おおたにのぞむ 大谷 望

研修医のみなさん研修修了おめでとうございませ...

外来診療担当医一覧表

2023年4月1日予定

Table with columns for Group Name, Clinic Name, Day, and Doctor Name. Includes sections for General, Circulatory, Cancer, Longevity, and Dialysis centers.

赤字は4月の変更予定分です。

〒752-8510 下関市長府外浦町1番1号 国立病院機構 関門医療センター 診療受付時間: 午前8:30~11:30 午後(各診療科外来にお問い合わせください) ※休診日:土曜日・日曜日・祝祭日・年末年始(12/29~1/3) ★代表 TEL(083)241-1199 FAX(083)241-1301 ★地域医療連携室 (紹介患者専用ダイヤル: 紹介状をお持ちの方) TEL(083)241-1191(2561)・2377 FAX(083)241-1302 (★透析センター FAX(083)241-1308) https://kanmon.hosp.go.jp/



前研修部長 よしのしげふみ 吉野 茂文



臨床研修医初期研修修了式～自己実現に近づけた2年間～



研修医 室田 啓介

自身の口唇口蓋裂の経験を生かして、患者さんによりよい医療を提供できるようにしたいと思いい形成外科を志望しました。 関門で当直や各診療科をローテーションする中で、終末期の患者さんや、認知症、生活保護の方など社会的な背景を抱えた患者さんを診療することがあり、その人にとって何がベストだったのだろうかという振り返り悩むことがあります。未だに答えは出ません。 研修の中で、こういった答えの出ない貴重な課題を日々考えさせていただき、学生時代にはなかった患者さんの背景を考慮するといったことが少しだけできるようになったと思います。 目指すのは、患者さんに先生にみてもらってよかったと笑顔で言ってもらえるような医師になることです。



研修医 梶野 貴一

全身をくまなく見ることが出来る医師になりましたが、画像を見て、どうしてそのような状態に至ったのか、論理的に考える指導医の先生にあって、放射線診断科を選びました。 研修では、初めての土地で、最初は心配でしたが、大勢の同期、先輩に助けられ、環境に慣れることができました。2年目の4月や5月は当直の回数も多く、きつーと思いましたが、少し自分の臨床能力が上達したような気がしました。 放射線診断科を初期研修のローテで回った際には、画像の読影の重要性を体験しただけでなく、ベッドサイドでの所見の重要性も学び



研修医 江島 俊

病気の本质を知ることが出来る病理診断科に進みます。 研修で心に残っているのは、総合診療科ローテ中に担当した、重症肺炎患者のMさんのことです。入院時からMさんは、自分では必要ない家族を家に残しているのだと死ねない、と仰っていました。しかし治療の効果が乏しく、Mさんの病状は悪化し、苦痛を和らげるために最期は鎮静薬を使用しました。鎮静の直前に「先生、今までありがとうございました」と仰った時のMさんの表情が、今でも胸に焼き付いています。 これから、病気を根本から治せる医師を目指します。



研修医 飯橋 直太

この2年間で振り返ると、想像を上回る水準で自分が未熟であったことを痛感した時間だった。物の場所が分からず右往左往し、診療科が変わればまた知識の整理を行い、抗生薬を使用する際にも適切な選択と用量を調べるなど、何をやるにもままならない状態であった。そんな中もがき続けた結果、2年前と比較すると格段に成長したと感じる。もちろん知識・技術の側面での成長もあるが、いろんなことを経験できたという事実の方が、自信につ



研修医 松下 拓歩

慢性的な疼痛を抱える人々が少しでも満足いく生活を送ることが出来る手助けをしたいため、整形外科を選びました。 研修の初めのうちはどんな医療行為をするにしても自信を持てず、様々な失敗をしてご迷惑をかけてしまったと思います。それでも上級医の先生方や他職種の方々の支えもあり2年間充実した研修生活を過ごすことができました。そんな学びの日々がこの2年間の思い出です。 これからは、不安に感じている患者さん一人一人に寄り添い、不安を取り除くことができ、頼れる医師になりたいと思います。



研修医 岸本 拓也

手術をしたい、全身管理をしたいことが一番の理由です。また将来的には救急科に進みたいため、救急科と密接に関係している脳神経外科を選びました。 関門に救急医の先生がいらつやったこと



研修医 竹下 皓子

で初期対応を含めERでの対応の基盤がこの2年を通して学ぶことができました。また各科の先生方も大変優しく、丁寧に教えて頂け、手技も積極的にさせて頂けたことで、医師としての考え、内科管理や基本的技術、そして他科の先生やコメディカルスタッフとの関わりについてもしっかりと学ぶことができました。 将来、目標とする先生とも出会うこともできました。自身の感情に左右されることなく、スタッフとも患者さんとも良好な関係を築き、信頼されるような医師になれるよう頑張ります。



研修医 大田 耕平

父親の働く姿を見て自分も同じ道に進みたいと思いい消化器内科の道に進みます。 研修では、数多く当直に入り、様々な患者さんに接させて頂きましたが、入院された患者さんが感じる事ができました。また、医療を行う上で医師が方針を決める必要性はありますが、普段の患者さんの日常を見ている看護師さん、リハビリを行うOT、PTさん、退院後の各病院との橋渡しをしてくださるソーシャルワーカーの方など、書くことが叶わないほどたくさんの方々に助けて頂き患者さんの診察にあたり、自身も成長することができました。 これからは、患者さんの立場に立ち、身体的な健康だけでなく精神的にも健康になれるような手助けができる医師になりたいと思います。



研修医 桑原 啓太

医学生の中から地元である長門市の地域医療に貢献したいと思っていました。その中でも長門市内の病院には皮膚科医の常勤の先生もおらず、開業医もいない状況で、市外の病院やクリニックに通院している患者さんが多くいます。その実情や地域医療に貢献したいという考えが合致し皮膚科を志望しました。 関門では、病院各所から見える時間帯や季節によって異なるオーシャンビューが印象的でした。これからは、患者さんだけでなくご家族、また多種にわたる医療従事者から信頼される医師になれるよう精進して参ります。



研修医 吉良 貞則

救急車で運ばれてきた骨折で体動困難な患者さんを、手術して再び歩行できるように治療する先方をみて、私は整形外科になろうと思いました。 関門の研修で研修してよかったことは、研修医の先輩、同期、後輩と切磋琢磨しながら医師として成長できたことです。 これから、患者さん一人一人に合わせたオーダーメイド治療ができるように、幅広い知識をもった医師になりたいと思っています。



研修医 高瀬 早百合

麻酔科研修で日々工夫しながら手技を磨く楽しさに目覚め、存在感は薄くても、周術期の安全をひそかに支えるこんぎつねのような存在になりたいという思いが強まり、気が付いたら麻酔科を選んでいました。 初期研修を始めたばかりの頃は、機械での練習や学生間の採血などの練習を重ねたにもかかわらず、本当の患者さんを目の前に緊張してばかりでした。そんな時、患者さんから「頑張るなさいよ」とたくさん暖かい言葉をいただきました。自分が病気で辛いのに研修医を思いやってく下さるやさしさに応えたい、日々良くなるよう、もっと痛くないようにしよう、向き合い続けることができました。同期や看護師さんにも相談し、他愛もない話をしながらリフレッシュできたのも良かったです。 専門の技術を取めつつ、患者さん、環境、医療チームの変化に俊敏に気づいて柔軟に対応でき、より多くの人々の健康に貢献できる存在になりたいです。



研修医 古城 沙耶佳

人間の身体の仕組みを知りたいという知的好奇心がきっかけで医学部を目指したことや、医学学生時代に最も興味を持って勉強した分野の一つに生理学分野があったことから、自身の医学に関する興味の原点ともいえる生理学に基づく全身管理を専門にしたいと考え、麻酔科を選択しました。 麻酔科では、手術の侵襲から患者さんの身体を守り術者が安心して手術に専念できるようにサポートする手術麻酔分野や、ICUなどでの集中治療分野、慢性的な痛みをかかえる患者さんに寄り添うペインクリニック分野など、今後もさらに分野が分かれていますが、どの分野に最終的に進むにしてもこれまで以上に学ぶことに貪欲に、様々な経験をしながら向上心を持って一つ一つのことに取り組むし続ける医師になりたいと思います。



研修医 柳生 健吾

これから私は、山口大学耳鼻咽喉科に所属します。山口大学医学部出身であり、大学時代の実習で耳鼻咽喉科の魅力を知ったことがきっかけです。研修医としての期間は関門医療センターだけでなく、山口大学附属病院や山口赤十字病院の耳鼻咽喉科でも研修させて頂き、日々多くのことを学び耳鼻咽喉科の魅力にますます惹かれました。 関門医療センターで研修して良かった点は、指導医の先生方のサポートのもとで積極的な様々な手技を経験できたことです。また、研修医の人数が多く、辛いときも研修医同士で支えあひながら乗り越えられました。 来年度から山口大学附属病院で勤務となりますので、山口県の医療に貢献できるよう精一杯頑張りたいと思います。



研修医 桂 秀典

昨今の超高齢社会で認知症が大きな問題となっており、認知症になる患者さんの約10%は難聴が原因と言われています。難聴を治療して認知症となる方を減らせればと考え、耳鼻咽喉科を選びました。 研修で最も印象に残っているのは、扁桃腺場入院を経験したことです。いつも医師の立場で患者さんと接していますが、自分が入院して抗生剤治療を受け（しかも志望科である耳鼻科疾患で）、患者さんの気持ちを体感できたと同時に、先生方や看護師さんのありがたみを肌で感じました。普段からの声掛けや、些細な気遣いがいかに患者さんの助けになるかを知ったので、技術面、対人面どちらにおいても患者さんを安心させられるような医師を目指します。



研修医 河野 侖奈

ポリクリ研修において、毎日患者さんに会う中で、現在の状態やこれから起こりうる問題を日々の血液検査や訴えから推測し、それが次第に合っていたことが明らかになるときに非常にやりがいを感じていました。その経験から、リスクの高い状態の患者さんの刻一刻と変わる状態をきちんと評価し、対応できる医師になりたいという思いがあり、救急科を選択しました。 やはり関門医療センターでの研修ではERでの対応という部分が多い印象でしたが、その中でもERから入院したその後という部分にもある程度関与することができ、大変勉強になりました。これからもしっかりと学びを深め、どんな重症でも自信をもって対応できる医師になるよう努めます。